

鎌倉の埋藏文化財22

Buried Cultural Properties in Kamakura 22

平成29年度発掘調査の概要



平成31年(2019)3月

鎌倉市教育委員会

～ごあいさつ～

私たちが暮らす鎌倉市は、源頼朝が武家政治を創始した地として知られ、中世に栄えた都市の跡をはじめとして、過去の人々の様々な生活の痕跡が地下に埋蔵文化財として数多く残されています。

これらの埋蔵文化財は、家屋の建築や、開発事業などさまざまな土木工事により失われてしまうことも少なくありません。これは、鎌倉の貴重な歴史遺産が失われることでもあり、非常に残念ではありますが、現代に生きる私たちが生活を営んでいく上では避けられないことでもあります。

このようにやむを得ず失われることとなる歴史遺産も、発掘調査を実施し、その調査成果と記録を着実に積み重ねて検証していくことで、鎌倉の歩んできた歴史の解明につながっていきます。

鎌倉市教育委員会では、発掘調査関係者の御協力を得ながら、この『鎌倉の埋蔵文化財』の発行をはじめ、遺跡調査速報展や鎌倉駅地下道ギャラリーでのパネル展、遺跡調査・研究発表会の開催などを通じて発掘調査の成果を広く紹介しています。また、平成29年5月に開館した鎌倉歴史文化交流館でも展示を行っています。

この『鎌倉の埋蔵文化財22』では、平成29年度に実施した発掘調査の中から、5つの調査地点の概要を紹介いたします。

これからも、さまざまなかたちで発掘調査の成果を公開するよう努めてまいりますので、文化財の保護に対する御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成31年(2019)3月 鎌倉市教育委員会

～目次～

1 若宮大路周辺遺跡群 (小町一丁目319番1外4筆地点)	1
2 若宮大路周辺遺跡群 (御成町876番3地点)	4
3 若宮大路周辺遺跡群 (御成町778番1外13筆地点)	6
4 横小路周辺遺跡 (二階堂81番1地点)	9
5 若宮大路周辺遺跡群 (由比ガ浜一丁目121番24地点)	10
英文要旨	12

～例言～

◎本書は平成29年度に市内で実施した主な遺跡の発掘調査の概要を掲載しました。

◎本書は鎌倉市教育委員会文化財課が執筆・編集しました。

◎本書の作成にあたり、次の方々のご協力をいただきました。深く感謝いたします。(敬称略)

株式会社イビソク、株式会社カヤック、株式会社斉藤建設、株式会社博通(安藤龍馬、滝澤晶子、宮田眞)

株式会社メディカルヘルスクラブ、日本ホテル株式会社、個人住宅の建築主の皆様

《表紙写真》 若宮大路周辺遺跡群(由比ガ浜一丁目121番24地点)で発見された道路跡

1. 若宮大路周辺遺跡群(小町一丁目319番1外4筆地点)

Wakamiya-Oji-Shuhen-Iseki Site

鎌倉時代の資源再利用

調査地点は、鎌倉駅から東に約200m、若宮大路二の鳥居の南東に位置します。若宮大路東側のこの調査地点周辺では、これまでの発掘調査で中世の半地下式の建物跡が発見されることが多く、商業で賑わう区域であったことが想定されています。今回の調査では、13世紀前半から14世紀中頃に機能していた東西方向の区画溝と、その周りに沢山の遺構が発見されました。特筆すべきは13世紀後半頃の建物跡で、瓦を敷き詰めて基礎にしている珍しい事例です。当時、瓦の使用は寺院や有力者の屋敷などに限られていたため、それらの場所で使用された瓦を集め、基礎として再利用したようです。建物の北東部では銅銭と、かわらけが瓦と混在して見つかっており、地鎮※が行われた跡の可能性もあります。このほか井戸の跡なども発見され、木製鋤^{すき}2本と漆器などが出土しました。その後、14世紀後半から16世紀後半には南北方向に走る溝や堀で区画された土地に、建物跡や井戸が造られますが、13世紀前半から14世紀中頃ほど土地利用は活発ではなかったようです。

※地鎮：土木・建築の工事着手前に土地の神様に対して工事の無事を祈願する祭儀



写真1 調査地南半分(南から)

(photo1) Southern half of research areas (from the south)



写真2 瓦片を基礎に使った建物跡

(photo2) Remains of building using pieces of tile on its base



写真3 建物の南東隅に敷き詰められた瓦（写真2の拡大）

(photo3) Tiles used to pave southeast corner of the base (Photo2.magnified)



写真4 土坑に廃棄されたかわらけ
(photo4) Earthenware discarded in pit



写真5 井戸の外側の埋土中から出土した鋤
(photo5) Plough excavated from back filling of the outer side of well

2. 若宮大路周辺遺跡群(御成町876番3地点)

Wakamiya-Oji-Shuhen-Iseki Site

南北方向の複数の溝と墨書のあるかわらけ

調査地点は、鎌倉駅から南に約250mの場所に位置します。ここでは、13世紀から14世紀にかけての遺構・遺物が発見されました。当時の生活面は現在の地面から1m以上深い位置に多く残されており、現在の地面から約2m下では南北方向に延びる複数の溝がありました。本調査地の北に位置する現神奈川県水道営業所地点での調査や、江ノ島電鉄の線路を挟んだ東側の調査地点などで、古代から室町時代前半に流れていたと考えられる河川の跡が発見されています。いずれもほぼ南北方向に延びており、今回発見された溝はこれらの地点で発見された河川に連続する可能性があります。

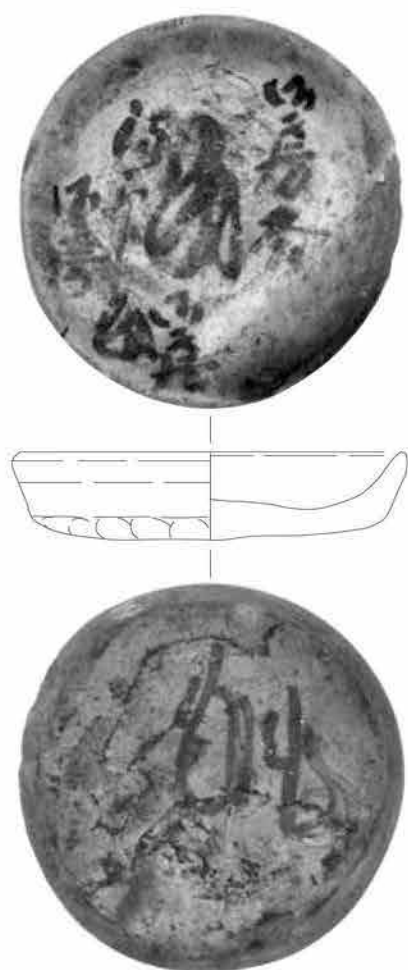
また、溝の中からは墨書が施されている13世紀代のかかわらけが見つかりました。その墨書は署名の下に書く判である「花押^{かおう}※」とみられます。

※花押：様式化した署名(サイン)のことで、初め楷書体だったものが草書体の草名となり、さらに様式化したものを花押と呼んでいます。同一人物のものであっても時期によりその形態は様々で、武家の花押は同族、主従などに類似した形が多くみられます。



写真6 調査地全景(写真上が北)(写真右に江ノ島電鉄の線路)

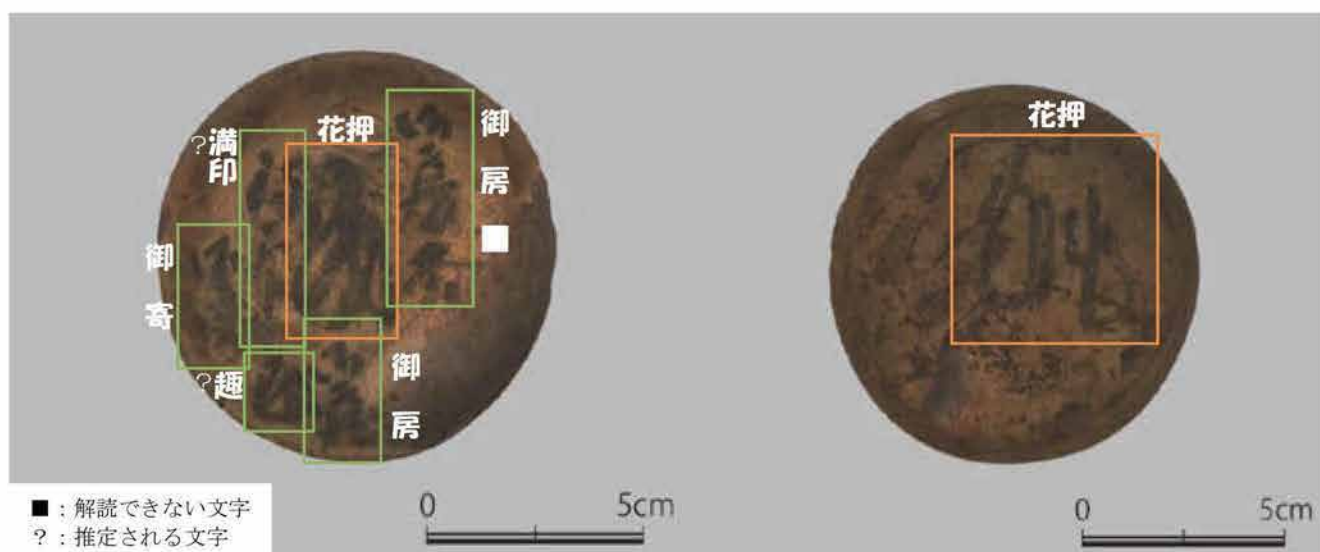
(photo6) Entire research area (north to the top, Enoshima Electric Railway to the right)



ごほう
御房：寺院または僧侶の敬称
おより
御寄：御寄講の略 浄土真宗
の信徒が家に寄りあつ
まって開く法会または
念仏の会

写真7 墨書かわらけ
(上：内側)
(下：外側)

(photo7) Ink inscribed earthenware
(top: interior; bottom: exterior)



■：解説できない文字
？：推定される文字

写真8 墨書かわらけ

(photo8) Ink inscribed earthenware

3. 若宮大路周辺遺跡群(御成町778番 1 外13筆地点)

Wakamiya-Oji-Shuhen-Iseki Site

地震によってずれた建物、噴き出した砂

調査地点は、鎌倉駅の南西約200mの場所に位置します。ここでは、13世紀から14世紀頃の建物跡や井戸の他、地震の跡も発見されました。当時は敷地の東側と西側で地形が異なっており、東側が低くなっていることもわかりました。その地形の境で土地を区画するような溝も確認されています。東側の低い部分は建物跡が少なく、そのかわり、用途不明の穴が複数確認されました。遺物も、ゴミとして捨てたような木材片が多く、人々が暮らす生活空間から外れた場所であった可能性があります。それに対して、西側では半地下式の建物跡が数多く確認されました。建物の土台や壁板が残っているものもあり、釘を使わず壁板と柱を組み合わせて建てている様子も確認できました。過去の調査結果と合わせると、これらの建物群が今回の調査地点の南西側にも広がっていたこともわかります。

また、ここではガラス玉や板締染型板^{いたじめぞめかいた}※、飾り板などの珍しい遺物も出土しました。半地下の建物は、これらを作ったり使ったりした職人たちの工房だったのかもしれません。

※板締染型板：「板締」は染色法の一つ。凹凸の模様を彫った薄板二枚で固く原糸や布を挟んで染料などをかけて模様を作る技法で、その板締に用いられる板が見つかりました。



写真9 建物土台の石材検出状況（南から）

(photo9) State of excavated stone material forming bases of building



写真 10 地震によってゆがんだ建物跡（写真上が西）
 (photo10) Building remains bent by force of earthquake



写真 11 傾いた井戸
 (photo11) Slanting well

地震の痕跡 液状化現象による噴砂

今回の調査では、主に地震による液状化を起こした地盤で起きる、噴砂現象の痕跡が見つかりました。

液状化が起こりやすい条件として、「砂地盤であること」「締め固まっていないこと」「地層が地下水で満たされていること」(下図 1)などが挙げられます。大きな地震があると砂の隙間が変形し、砂が水に浮いた状態(下図 2)になります。これが液状化です。液状化した状態になると、その層より上部の土や建物の重みで地層が圧迫されて地下水圧が上昇し、水が逃げ場を求めて地表面に移動しようとしします(下図 3)。その際に、土砂を伴い泥水となって地表面に噴き出します。この現象が噴砂と呼ばれるものです。

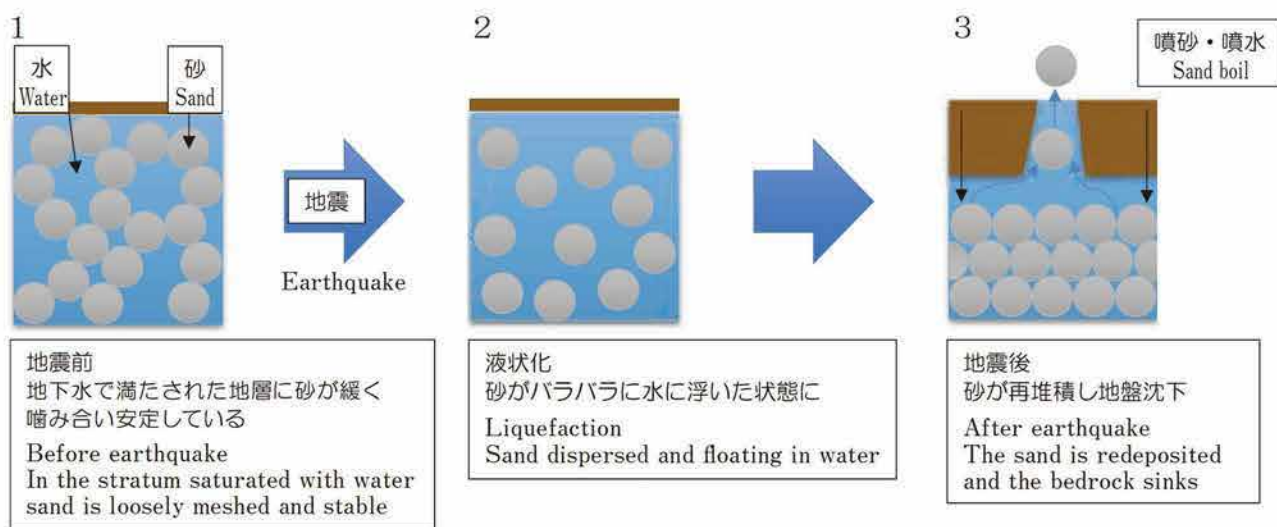


写真 12 噴砂
(photo12) Sand boil

4. 横小路周辺遺跡(二階堂81番 1 地点)

Yoko-Koji-Shuhen-Iseki Site

建物基礎の周囲にかわらけが…

調査地点は、荏柄天神社と鎌倉宮の中間の場所に位置します。北側には、最奥に覚園寺が所在する谷戸「薬師堂ヶ谷」があります。調査地は丘陵の裾にあたり、東と南に向かって地面が低くなっていく場所に立地しています。

今回の発掘調査では、中世に属する 8 時期の生活面が発見されました。12 世紀末から 15 世紀前半にかけて盛土造成を繰り返しながら土地利用を続けていた様子が確認できたほか、各層から出土する遺物の時代ごとの変化もたどることができました。14 世紀前半頃の生活面では、小規模な礎石建物跡が見つかりました。さらにさかのぼる 13 世紀中頃の生活面上では、南北方向の道路や塀の柱穴などの遺構が発見され、道路には排水のための側溝も造られていました。最も古い時代の生活面の下からは、東側に落ち込む谷の痕跡を確認しました。この谷の埋没土からは、鎌倉時代でもごく早い時期(12 世紀末から 13 世紀初頭)の遺物が出土しており、鎌倉時代の初めに、人々が谷を埋め立てて平坦な土地を広げ、生活していたことがわかりました。



写真 13 礎石の周囲に置かれたかわらけ (14 世紀前半頃)
(photo13) Earthenware placed around foundations (early 14th century)

5. 若宮大路周辺遺跡群(由比ガ浜一丁目121番24地点)

Wakamiya-Oji-Shuhen-Iseki Site

道路を壊した建物

調査地点は、鎌倉駅から南西に約500mの場所に位置します。ここでは、13世紀から14世紀の建物跡や道路跡などが発見されました。見つかった道路は南北方向に延び、幅は3～4mです。一番古い時期の道路は砂質土を固くたたき締めて造られていましたが、時間が経つにつれて砕いた泥岩や凝灰岩等を用いた舗装や拡張が幾度となく行われ、幅が7mとなる時期もあることがわかりました。また、7棟発見された14世紀前半の建物跡のうちの2棟は、これらの道路を壊して造られていました。

『吾妻鏡』文永二(1265)年三月五日条には、「家前の大路を掘り上げて屋を造ること、同じく停止せらる。(略)」という記述があります。

これは道路を掘って建物をつくってしまう人が後を絶たなかったため、幕府がこうした行為をやめさせようとしたと考えられます。しかし今回見つかった事例は、13世紀半ばに禁止された後の14世紀代に入っても、道路を掘って建物を造ることが後を絶たなかったことを示しています。



写真 14 道路跡と建物跡(南西から)

(photo14) Remains of roads and buildings

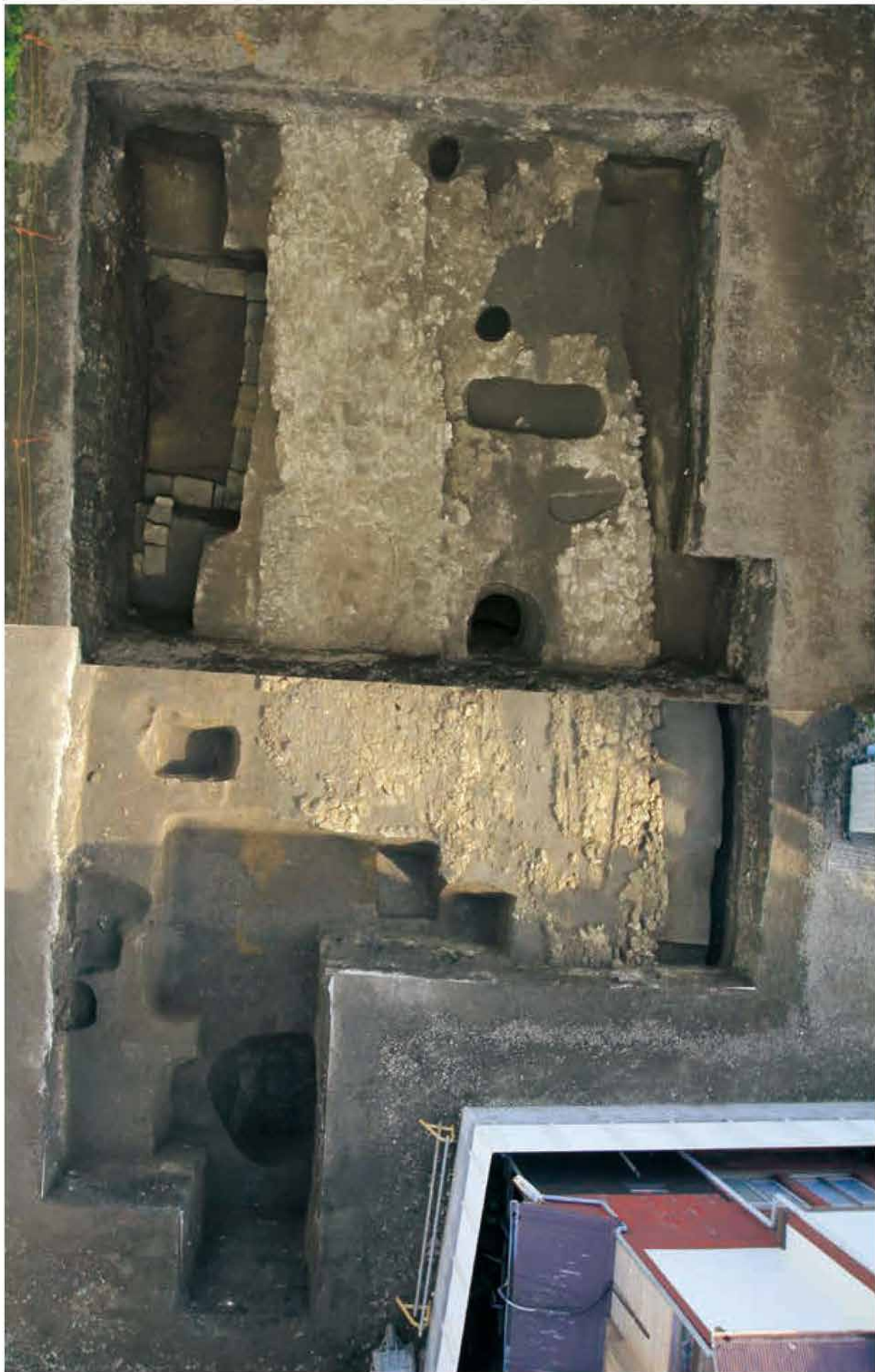


写真 15 調査地全景 上空から撮影 (写真上が北)
(photo15) Aerial photograph of entire research area

Buried Cultural Properties in Kamakura 22

1 . Wakamiya-Ohji-Shuhen-Isekigun Site (Komachi 1 -319- 1 and four other locations)

Reuse of resources in the Kamakura period

The research area is located around 200m east of Kamakura Station, to the southeast of Ni no Torii, the second gate of Wakamiya Ohji. A large number of the medieval remains of semi-underground structures has been discovered in this area, and it is likely that the vicinity was once a bustling commercial district. The latest discovery has unveiled a ditch running from east to west and a large number of structures dating back to the 13th and 14th centuries. A noteworthy features is the unusual example of late 13th century structures using tiles as their base. In that day and age tiles were used only in temples so it appears that these have been collected and reused here. A mixture of copper coins and earthenware were discovered here and there towards the northeast of the buildings, suggesting the possibility of some sort of *jichin* groundbreaking ceremony. Although buildings were built here until the 16th century, it would appear that use of the land was not as frequent as it was during the 13th and 14th centuries.

Jichin: A Shinto ceremony performed prior to engineering or construction work to ask the gods of the land for the successful completion of the work.

2 . Wakamiya-Ohji-Shuhen-Isekigun Site (Onari Machi 876- 3)

Series of ditches and earthenware with ink inscriptions

The research area is located about 250m south of Kamakura Station. On this site a large number of earthenware dating from the 13th and 14th century have been discovered in the ground at a depth of 1m below the present surface, in addition to a series of ditches running from north to south and dug at a depth of 2m underground. Research conducted in the area to the north where the Kanagawa Prefecture Waterworks Bureau is now situated, and on the eastern side sandwiched between the tracks of the Enoshima Electric Railway Company have unearthed traces of what is thought to be a river that once flowed from ancient times until the Muromachi period. It is possible that the recently discovered ditches connected to this river.

In addition, 13th century earthenware with ink inscription have also been discovered in the ditches. These ink inscriptions appear to be *kaou* seals written below signatures.

Kaou : Stylized signatures ranging from block script to cursive script to form a signature, often combining two characters into one, known as a *kaou*. The shape of even the same person's signature could vary greatly from one period to another, and the *kaou* of warrior families display many shapes similar to those of family members and lords and servants.

Gobou: This was a general term of respect for temples or their priests.

Oyori: An abbreviation of the term "oyorikou," a memorial service or prayer meeting convened by members of the Jodo-shin sect, and conducted at one of the believer's house.

3 . Wakamiya-Ohji-Shuhen-Isekigun Site (Onari Machi 778- 1 and 13 other plots of land)

Buildings displaced as the result of earthquakes and sand boils

The research area is located around 200m southwest of Kamakura Station. The traces of buildings and wells from the 13th and 14th centuries, as well as evidence of earthquakes have been discovered here. In those days the land to the eastern side was lower and of a different topography to that of the western side, and the presence of ditches forming the divisions of land plots has been confirmed. The remains of buildings on the eastern side are scarce, with numerous holes and wood chips of which the purpose is unclear. It is considered that this area was some distance apart from the place where people were leading their daily lives. On the other hand, in the western side a large number of the remnants of semi-underground structures has been identified. The state of preservation of these structures is good, and they demonstrate that wall panels and pillars were fitted together without the use of nails. Looked at in conjunction with the results of research conducted in adjacent areas, it can be seen that the group of buildings spread out in a south-westerly direction from the research site. Furthermore, this site has also yielded unusual artefacts such as glass balls, *itajime zomekataita*, and decorative panels. The semi-underground buildings may well have been the workshops of craftsmen.

Itajime Zomekataita: *Itajime* is a dyeing method in which yarn or cloth is pressed firmly between two thin wooden panels onto which uneven surfaces have been incised, and dye is added to create a pattern. Some panels used in *itajime* dyeing have been discovered.

Traces of earthquakes and sand boils caused by the liquefaction

The research discovered evidence of the sand boil phenomenon that is caused by liquefaction of subsoil mainly resulting from earthquakes. Some of the conditions required to raise the likelihood of liquefaction are a sandy subsoil that is not tightly packed and the saturation with water of the geological stratum (Fig 1). In the event of a large earthquake the shapes of the gaps in the sand are altered and the sand becomes suspended in water (Fig 2). This is liquefaction. When liquefaction occurs, a downward pressure is exerted on the stratum by the weight of the earth and buildings above it, the subterranean water pressure increases and the water tries to escape by moving towards the soil surface (Fig 3). When this happens a mixture of gravel accompanied by muddy water spurts through to ground level. This phenomenon is referred to as “sand boils.”

4. Yoko-Kohji-Shuhen-Iseki Site (Nikaido 81-1)

Earthenware found around the foundations of buildings

The research area is located midway between Egara Tenjin Shrine and Kamakura Gu Shrine. To the far rear of the north side is Yakushidogayatsu, a cluster of small open spaces among eroded hills belonging to Kakuonji Temple. The location of the research is on the spot where the ground surface becomes lower towards the east and south.

The recent excavation research uncovered traces of daily life from eight periods of Japanese medieval history. It was confirmed that from the late 12th century to the early 15th century raised embankment construction had been repeatedly carried out while the land was continuously used. Relics of small buildings from the 14th century were found, while going back to the 13th century roads and ditches running from north to south, and postholes for walls were discovered. The oldest remains were found in the valley descending from the eastern side of the site. Relics from the early Kamakura period (late 12th century to early 13th century) were excavated from the filling soil here, and it became clear that the people of the times had carried out land reclamation works to create an area of flat land upon which they led their lives.

5. Wakamiya-Ohji-Shuhen-Isekigun Site (Yuigahama 1-121-24)

The buildings that broke the roads

The research site is located around 500m southwest of Kamakura Station. The remains of buildings and roads dating back to the 13th and 14th centuries have been discovered here. The roads ran from south to north and were about 3 m to 4 m wide. The roads from the oldest periods were constructed from sandy soil that had been beaten to compact it, but it became apparent that there was also a period when they were subsequently paved and expanded using crushed mudstone and tuff, and widened to 7 m. In addition, two of the seven remains of buildings dating back to the 14th century were built by breaking up the roads.

The March 5, 1265 entry in the *Azuma Kagami*, an ancient collection of records dating from the 12th to 13th century, states (the following is an abbreviation) that: “Digging up the road before houses and building on it shall be stopped.” It is considered that, as people continuously dug up roads and built on them, the shogunate government tried to halt this practice. However, as these recent discoveries suggest, even after the practice of digging up roads was prohibited in the mid-13th century people continued to do so during the 14th century.

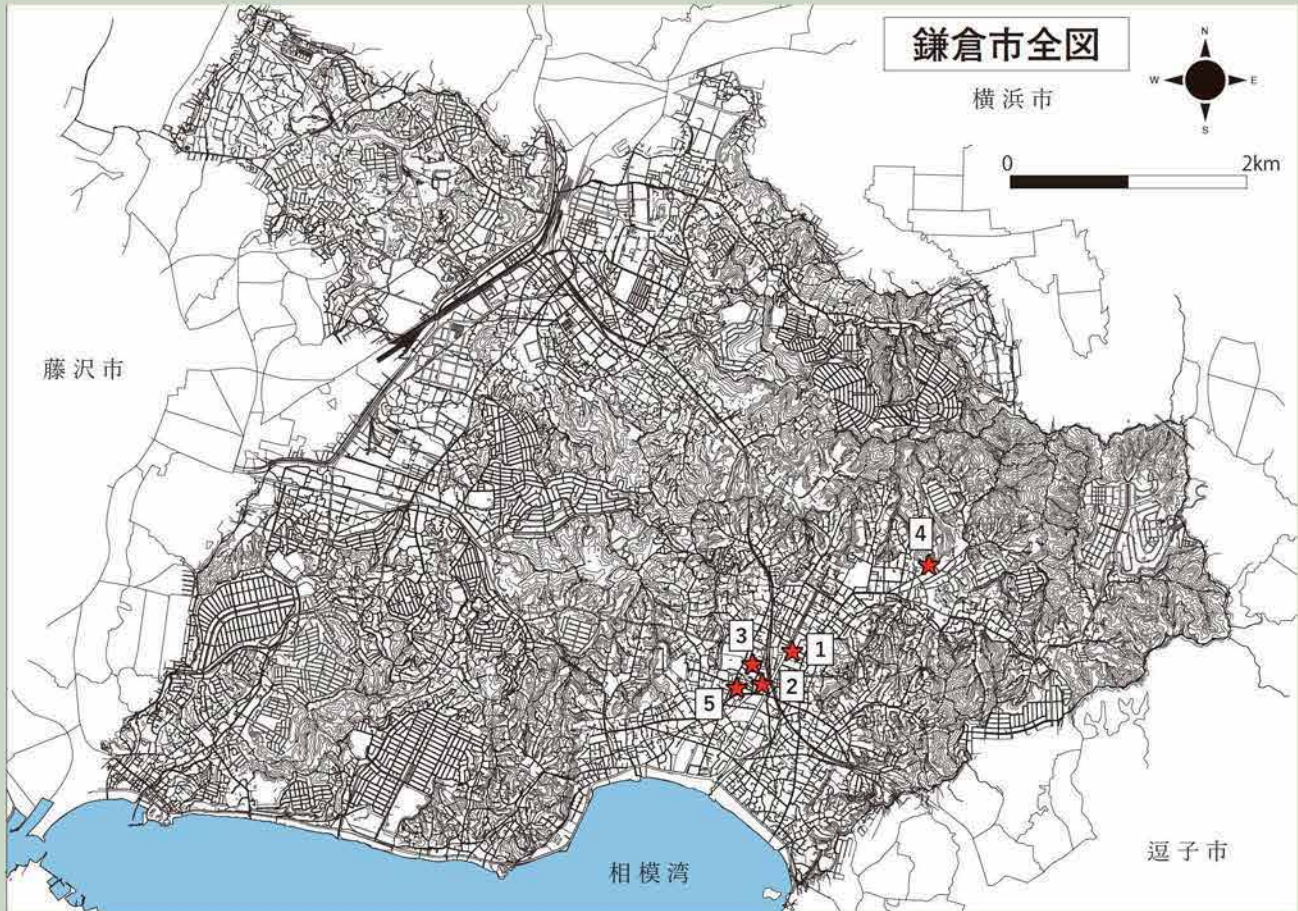


写真 16 若宮大路周辺遺跡群

小町一丁目 319 番 1 外 4 筆地点 出土瓦 ともしもん 巴紋

(photo16) Tiles of tomoe-mon pattern excavated from remains at Wakamiya-ohji-Shuhen-Isekigun Site (Komachi 1-319-1 and four other locations)

本書掲載の調査地点



《掲載遺跡名称及び所在地一覧》

- | | | |
|---|----------------------------------|-------------------------|
| 1 | わかみやおお じしゅうへん いせきぐん
若宮大路周辺遺跡群 | (小町一丁目 319 番 1 外 4 筆地点) |
| 2 | わかみやおお じしゅうへん いせきぐん
若宮大路周辺遺跡群 | (御成町 876 番 3 地点) |
| 3 | わかみやおお じしゅうへん いせきぐん
若宮大路周辺遺跡群 | (御成町 778 番 1 外 13 筆地点) |
| 4 | よここう じしゅうへん いせき
横小路周辺遺跡 | (二階堂 81 番 1 地点) |
| 5 | わかみやおお じしゅうへん いせきぐん
若宮大路周辺遺跡群 | (由比ガ浜一丁目 121 番 24 地点) |

鎌倉の埋蔵文化財 22

発行日	平成31年(2019)3月22日
編集・発行	鎌倉市教育委員会 〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号 TEL : 0467 (61) 3857 FAX : 0467 (23) 1085 E-mail : bunkazai@city.kamakura.kanagawa.jp
印刷	株式会社ポートサイド印刷
